

2018 年度

ロシア派遣留学報告書

実習先：ウラジオストク国立経済大学

実習期間：8月28日（火）～12月26日（水）

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21017081
多田 実莉

目次

1	留学先及び実習期間	3
2	留学先概要	3
3	留学目的	3
4	留学内容	4
	4 - 1 留学のスケジュール	4
	4 - 2 留学の詳細	5
5	所感	9
6	おわりに	9
	謝辞	10

付録

	留学記録	10
--	------	----

1 留学先及び実習期間

留学先：ウラジオストク国立経済大学

留学期間：実習期間：8月28日（火）～12月26日（水）

※帰国は12月27日（木）

2 留学先概要

(1)大学について

ウラジオストク国立経済大学は1967年に開学した大学であり、ウラジオストクの市内中心部に位置している。学部は経済系、美容やデザイン系の学部があり合計で8学部存在する。学士課程は4年間だが、法科大学院や修士課程に進学することも可能である。大学内にはスポーツ施設として屋内プールと体育館が存在する。また、学生が食事できるカフェや食堂も複数存在する。学生数は1万5000人以上であり、学生が利用できる大学専用の寮(1200人入居可能)が大学に隣接している。この寮はロシア人はもちろん、日本や韓国などからの外国人留学生も多く利用している。

(2)大学で行われている教育について

この大学はサービス業を育成する大学のランキングでトップを誇り、ロシア国内全体でも550大学中63位である。そのためロシア連邦教育省から賞を受けたこともある。前述したように経済をはじめ美容やデザインといった学部があるため、大学と専門学校が複合している印象である。

3 留学目的

今回の留学の目的は第一にロシア語の上達である。日本にいとロシア語に触れる機会は大学以外ではかなり少ない。しかし語学を習得するときには大切なことは、その言語にできるだけ多く触れることである。実際身近にありふれている英語は学校で学ばなくとも、日常生活の中で自然に意味を習得していることがある。このことから周りの環境がロシア語にあふれているならば日本にいる時よりもロシア語を学べる機会が多くなるといえるのではないか。また、ロシア人と実際に交流することで、より自然なロシア語を習得できるメリットもある。つまりロシア語に囲まれた状況で、自分のロシア語力を包括的に向上させることがこの留学の狙いだった。

第二の目的として自身の自立を目的としていた。自分自身この留学に参加するまで日本から一歩も出たことがなかった。ロシアという異国においてきちんとした生活が行えるようになることは自分にとっては大きな目的であり、ある意味一番の懸念材料だった。

4 留学内容

以下から留学の内容を記述する。

留学期間中に行った活動の詳細は付録に記載する。

4 - 1 留学のスケジュール

留学期間中のスケジュールは以下のとおりである。

主なイベントスケジュール

月	日 (曜日)	午前	午後
8	28 日(火)		到着、入寮
	30 日(月)		市内観光
9	5 日(月)	授業開始	
	15 日(土)	灯台観光	
	30 日(日)	虎の日(フェスティバル)	
10	5 日(金)	公園でオリエンテーション	
	6 日(土)	サーカス鑑賞	
	14 日(日)	紅葉狩り	
	28 日(水)	オペラ鑑賞	
	31 日(土)	動物園	
11	3 日(土)	バレエ鑑賞	
12	10 日(月) ～17 日 (月)	テスト週間(クラスや科目によって異なるためあくまで目安)	
	20 日(木)	留学生一同でお茶会	
	21 日(金)	スキー場へ	
	25 日(火)	成績書授与	
	27 日(木)	帰国	

4 - 2 留学の詳細

スケジュールに記載してある各項目の内容は以下のとおりである。

I. イベント関係

i. 灯台観光

ウラジオストクの有名な観光地の一つであるトカレフスキー灯台。海沿いまではバスと徒歩で移動した。



ii. 虎の日

ロシアでは9月最後の日曜日にあるのが「虎の日」。アムールトラなどの保護を目的とし、広場近くでパレードが開催される。大勢の人が虎の仮装やメイクを施し一堂に会する。



iii. オペラ、バレエ鑑賞

両方ともマリインスキー劇場の沿海州別館で鑑賞した。料金も手ごろで学生でも参加しやすく、多くの留学生が参加した。オペラに関しては英語字幕ありで歌詞が理解しやすい。

iv. スキー場

スキー場というよりは雪遊びのできる大きな公園という印象。スキー、スケート、チュービング(浮き輪のようなそりに座り、斜面滑り降りるもの)などができる。食事のできるカフェもある。

v. お茶会

留学生一同が集まりお茶会をした。ロシア伝統のサモワールを用いてお茶を淹れてもらった。



vi. 成績書授与

一人一人に今までの成績書が手渡される。このイベントで主な授業は終了し、帰国準備となる。

II. 授業関係

ロシア到着後すぐにクラス分けのためのロシア語テストがある。クラス分けが発表されるまでの1週間は留学生全員が同じクラスで授業を受ける。その後クラス分けと時間割が発表される。時間割は以下の表の通り。

1 週間の時間割

	月	火	水	木	金
1 限 (8 時 3 0 分 ～ 1 0 時)	文法	文章表現	文章読解	文章読解	会話表現
2 限 (1 0 時 1 0 分～ 1 1 時 4 0 分)	会話表現	聞き取り	会話表現	聞き取り	文法
昼休憩					
4 限 (1 3 時半～ 1 5 時)	地理	美術		音楽	歴史

i. 文法

先生がスライドやプリントを使い文法を教えてくれる。クラスは少人数で行うため質問がしやすく、授業についていけない心配はあまりない。しかし日本の大学で使うテキストを一通り読んでおくとさらに理解が深まる。留学前に予習が可能な科目である。

ii. 会話表現

週に 3 回ある最も授業が多い科目。どの科目も発言は必要だが、特にこの科目では必要度が高い。ロシア語で留学生同士がテキストの会話文を参考にして会話する。パワーポイントによるプレゼンテーションを求められることもある。

iii. 地理

ロシア沿岸地域の地理を学ぶ。上記の授業に比べ専門用語や日常会話であまり使わない単語が出てくる。事前にロシアの地理についての説明文を翻訳したり必要単語を調べておくと授業がよく理解できる。

iv. 文章表現

基本的な文章の書き方から始まり、最終的にはセリフを含む文章で物語を説明するというロシア語表現力が向上する授業。自分が書いた文章を先生がすぐ校閲してくれるので間違いをすぐ訂正出来、より自然な文章を学べる。

v. 聞き取り

単語や会話文を聞き取りそれを書き取るといった授業である。細かいロシア語の発音を学べる。単語を聞き取るためほかの授業以上に単語を覚える機会が多い。

vi. 文章読解

ロシア語の文章の読み方を学べる。ロシア語がすべて理解できなくても文章の内容がつかめるようになる。

vii. 美術

ロシアの伝統工芸品や絵画について知ることができる。それらをモデルにし絵をかいたりする。クリスマスにはツリーにぶら下げる小さいマスコットづくりも行った。

viii. 音楽

ロシアの民族的な曲から最近の人気曲まで学べる。歌詞カードを見ながら全員で合唱する。ロシアの民族楽器を奏でている動画を観たり、それについての説明を先生から受ける。

ix. 歴史

授業前の予習が必然である科目。テキストを授業前に読み、それについての設問に答える。キエフ大公妃などの歴史を学んだ。地理と1, 2を争うほど専門科目や日常会話以上の単語を扱う。

5 当初目的・目標への達成度

今回の留学の目的の達成度について、それぞれまとめる。

i)ロシア語を上達させること

今回の留学体験によってロシア語が総合的に上達した。最初は聞き取れなかったロシア語の会話文も帰国するまでにはかなり聞き取れるようになった。またロシア語で物語を描く課題を行ったことでロシア語での作文能力が身についた。留学後に日本で使っていたロシア語のテキストがスラスラ読め、上達を実感できた。

ii)自立すること

寮生活では洗濯や炊事などの基本的な家事を行っていたので生活スキルが留学前と比べ格段に向上した。またさまざまな国出身の留学生と交流することで、会話力が向上したのに加え、異文化理解にもつながった。

6 反省・課題

4か月間の留学は自分自身をあらゆる面で向上させられる有益な機会であった。今回の反省点としては留学前の予習である。留学前はパスポートのことや荷造りなどに追われがちで肝心のロシア語学習がおろそかになっていた。ロシアについてからもっと単語を覚えてくればと何度か事前学習の重要性を痛感した。

今後の課題は今回学んだ多くのことを無駄にしないために尽くすことである。ロシア語に加え今回培った自立心を帰国すると忘れがちである。留学経験は得るだけでなくそれを自身の今後に生かして初めて本領を発揮するものだと考える。

謝辞

今回の留学先であるウラジオストク国立経済大学の皆さま、留学先で知り合った留学生の皆さま、そして奨学金授与等によって今回の留学をサポートして下さった新潟国際情報大学の皆さまに深く感謝申し上げます。

付録：ウラジオストク到着までと中心街までの移動手段

- ・日本からウラジオストクまで

8月28日 火曜日 午前
出発 新潟駅
内容 ・新潟駅東京駅間は新幹線移動 ・スカイライナーで成田空港到着 先生と合流 ・成田から飛行機に乗りウラジオストク国際空港へ ・ウラジオストクで入国審査 ・空港から寮までバスで移動

移動の所感、寮の感想

飛行機での移動は3時間ほどであるためあっという間にウラジオストクに到着した。ウラジオストクと日本は1時間しかないため時差ぼけはなかった。寮では炊事洗濯など一通りの家事をしなければならなかったため最初は戸惑った。しかし思ったよりも自分も周りも早く順応できたように感じる。スーパーの場所やレジの仕方を最初に先生に教えてもらったので買い物にもあまり困らなかった。

- ・ウラジオストク観光

8月30日 木曜日 午後
市内観光

担当 マリーナ先生
主な内容 ・ 中心街の行き方や広場など観光地案内

所感

数多くの店がある中心街はこの後に何度も訪れることになったので早くに行き方を知ることができたのは大きかった。ウラジオストクはバスが番号で分けられているため覚えるまで苦労した。そのためバスの番号や止める停留所を調べられるウラジオストクのナビアプリは入れておいて損はない。衣料品店に土産屋、カフェなどが軒を連ねる。

写真は中心街にあるカフェのブリヌイ

価格も手ごろで種類が豊富なため留学生の間で特に人気だった。

